

—平成 15 年春（午前）問 45—

問 9 上流 CASE ツールに分類されるものはどれか。

- ア システム設計支援ツール
- イ テストデータ支援ツール
- ウ プログラム自動生成ツール
- エ プロジェクト管理ツール

問 10 ソフトウェアに関するフォワードエンジニアリングの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア 既存のプログラムから設計仕様を抽出する。
- イ 入力、処理、出力の順にプログラムの設計を行う。
- ウ 外部設計、内部設計、プログラム設計の順に設計を行う。
- エ 既存プログラムの解析等で得られた仕様を元に新しいシステムを開発する。

3. ソフトウェアの開発管理

問 1 GUI を活用したソフトウェアの開発規模を見積もるのに適用しやすく、外部入出力や内部論理ファイルの数と難易度などから、システムの開発規模を見積もる方法を何と行うか。

- ア COCOMO 法
- イ ファンクションポイント法
- ウ 類似法
- エ DOTY 法

問 2 ソフトウェアの規模を入力変数として、コスト誘因とそれに対する係数を考慮しながら開発工数を計算してコストを見積もるモデルを何と行うか。なお、このモデルでは自社における生産性のデータ収集が不可欠である。

- ア COCOMO 法
- イ ファンクションポイント法
- ウ 類似法
- エ 標準値法

—平成 13 年（秋）問 56—

問 3 ソフトウェアの開発規模と開発工数の関係をグラフで表現したとき、最も適切なものはどれか。

